

展示方法を変えて

No.19

2017

高級感がアップ!



売上3割UP!

常設店と間違えられるほど、銀座松屋にフィット

三越伊勢丹浦和店では九州らしさを前面にアピール

使った飴の製造依頼が持ち込まれるようになり、製造する飴のバリエーションが広がりました。

一昨年には、鹿児島県が進める食品関連振興プロジェクト(食プロ)に参加して刺激を受け、商品パッケージを刷新するなど、新しい販売にも挑戦しています。

時流に乗った売り方が必要だと実感した富士屋製菓さん。よろず支援拠点の相談は、まずは、商談会での商品の展示方法の相談でした。よろず支援拠点コーデイ

無料の経営相談所

鹿児島県 よろず 支援拠点 NEWS

ディスプレイの力に驚き、展示会での反応にも変化

「からいも飴は富士屋あめでうす」は、鹿児島島の人なら誰もが聞いたことがあるであろうCMですね。からいも飴製造で知られる富士屋製菓は、明治19年から、大崎町で菓子製造業を営む老舗です。

「転機は10年ほど前の塩飴ブーム。これを機にキャンディ人気が上昇。富士屋製菓へも、鹿児島県内外のフルーツなどを

ことに。出店時期が4月なので、桜の花や和をイメージしたディスプレイを提案。「新聞紙でショーケースの実物大を作り、試作することを教えてもらった」などと入念な準備をして臨みました。

催事は、価格設定などに課題が残ったものの、百貨店の上得意様に好評で、次回のお店も依頼されたほか、ほかの百貨店からも依頼が相次ぎはじめ、売上は3割増。田舎の素朴なおやつがおしゃれさをまとい、新たな販路を掴みつつあります。



小野まゆみ 常務

まだまだ作りたい商品案があります!

(有)富士屋製菓

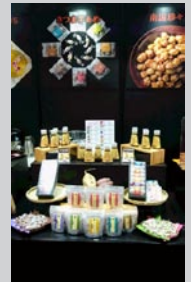
曾於郡大崎町仮宿1098-2
tel.099・476・0067



サイズ感は、新聞紙を広げて得る

ネーターのアドバイスに従い、ハイセンスで立体的な見せ方にチャレンジ。その結果、なんと契約が倍増。日本橋三越や銀座松屋など、高級百貨店の催事への誘いも受けることになりました。

「特に、銀座松屋は、棚やワゴンではなく、ガラスケース。入口のとても目立つ位置の指定でした。うちなんか無理です」と、最初はお断りしたんですよ」と、小野まゆみ常務。重ねての依頼に、よろず支援のコーデイネーターが再びアドバイスする



まずは、たくさんのバイヤーの目に留まる必要がある

(公財)かごしま産業支援センター 鹿児島県よろず支援拠点

CC:加藤剛/SCC:山之江清子/C:向江隆行・森史憲・堂免正志・小平田貴子・鎌田香・松田貴志・新地美沙・武田清孝

tel.099・219・3740 ✉ yorozu@kric.or.jp

鹿児島市名山町9番1号(産業会館1階)/FAX.099・223・7117/営業時間 平日8:30~午後5:15

